



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

通信メディアを統合した多地点遠隔共同講義システムの開発

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2008-03-12<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 村瀬, 康一郎<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/599">http://hdl.handle.net/20.500.12099/599</a>              |

平成9年12月に大学審議会「遠隔授業」の大学設置基準における取扱い等について（答申）が公表され、通学制の大学においても同時かつ双方向の遠隔授業による対面授業相当の教育効果を有すれば単位修得が可能となり、卒業に要する単位のうち60単位を限度に単位修得が認められている。また、大学院においては特段の限度はなく遠隔授業による単位修得が認められている。さらに、平成12年6月に大学審議会「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」（審議の概要）を公表し、インターネットを活用した授業を含めて「遠隔授業」として扱うことを示唆している。

これらの「遠隔授業」の扱いにより、各大学においてテレビ会議システムを利用した遠隔授業が開始され、大学開放による地域貢献、学習機会の拡大・公平化を志向したリカレント教育の展開が積極的に進められるようになってきている。筆者らの大学においても、平成9年度よりテレビ会議装置を利用した遠隔授業（免許法認定公開講座等）を試行し、平成14年度末までに遠隔授業による単位修得者は、4,000人を越えている。さらに、平成11年度より夜間・遠隔大学院を開設し、県内4地点で現職教員等の学修が行なわれている。

筆者らはこの遠隔授業の取り組みに当初から携わりながら研究を進め、テレビ会議装置は特に多地点間を同時に接続する場合に、一般の会議とは異なる形態をもつ授業ではレクチャーモード等の必要性を指摘するとともに、地域の高度情報通信網が整備されつつある現在においてはISDN回線の使用からLAN接続へと移行するため、各種回線網を総合的に接続する必要性を痛感し、SCS・エルネット等の衛星通信との接続をも視野に入れた総合的共同講義システムの開発の必要性を指摘してきた。

本研究は、これまで個別に研究開発され、運用されてきたテレビ会議等の映像・音声を活用した遠隔教育システムを総合的な視点から相互接続を可能とした大学間の遠隔共同講義システムを開発することを目的とした。すなわち、ISDN等の公衆回線を通信基盤としたテレビ会議（国際規格 H.320）、LAN上のIP通信で活用されるテレビ会議（国際規格 H.323）を相互接続し、学外の地域が整備する情報スーパーハイウェイ等との接続により、地域での教育・研修のための利便性に優れたテレビ会議による遠隔講義システムを開発する。さらに、衛星通信を用いて展開されるSCS、エルネット、CS等との接続性を高め、より広域での教育・研修を可能とし、開発した多地点遠隔共同講義システムを様々な遠隔共同講義や講演会等に適用・試行し、システムの改善課題や、遠隔共同講義実施にともなう問題の把握や解決法および運用ノウハウ等の蓄積を行った。また、これらの遠隔授業を大学間が共同して推進するための授業に関する情報提供をオン・デマンドで実現可能とした。

本研究を実施するにあたり、研究分担者をはじめとして、多くの教師や学校、各地の教育委員会、そして岐阜大学教育学部に多大な協力をいただいた。記して感謝の意を表します。